



月刊 部口新聞

2008年12月 第37号

編集・発行 Unit

体力トレーニング部 ①

ある学校に1人の体育教員が赴任してきた。富士駆男（フジカルオ）である。彼は以前フジカルコーチとして仕事をしていたが、ひよんな事からこの学校の教員になることになった。

体育科の主任である財前筑紫（サイゼンツクス）は以前からどの部活も体力トレーニングを上手くできていない現状に頭を悩ませていた。富士の赴任をきっかけにもしかしたらこの現状を変えることができると企んでいる。

「おはようございます。今日この学校に赴任してきた体育教師の富士駆男です。以前はフジカルコーチをしていました。宜しくお願いたします。」
「おはよう。主任の財前です。早速で申し訳ないが、富士君の専門は何かな。部活の面倒を見てもらうと思うのだけども。」
「特にこれといった物はありません。バイオメカニクスの技術指導でよろしければですが、戦術は無理ですね。」
そこで財前は以前から考えていたプランを彼に任せてみようと考えた。
「富士君、新しい部活を作ろうと思つているのだが、その部活を担当してもらえないか。」
「ええ。かまいません。」
と、富士は不安そうに答えた。「いったいどんな部活を作るのですか。体育科のある、この学校にはほとんど主要な種目の運動部はありませんよね。しかもそれなりのレベルでどの部活も活動をしている。今からさらにどのような部活を作るといえるのですか。」
「体力トレーニング部だよ。君にはうってつけだと思つて。」
「体力トレーニング部ですか。」
と、言いながら富士は目を白黒させている。まあ当然だろう。今までそのような名前の部活は聞いたことがないだろうから。
「体力トレーニング部とは何をするのですか。大学とかでトレーナー部とかは聞いたことがあります。自分たちがただトレーニングをしても仕方がないと思つています。」
「いやいやそうじゃないんだ。いろいろな部活の体力トレーニング指導してもらいたいんだ。それとトレーニンググループの管理だ。現状はあまり良くはないけどな。」
と、財前は少し笑いながら続けた。「当校の部活を指導している先生方は非常に良くやつてくれている。技術面や戦術面においては彼らの経験も含めずばらしい指導をしてくれている。ただやはり体力面の強化となると、30年前に自分たちが現役時代にやっていたものそのままやらせている人もいれば、全く関知せず生徒に任せっきりの人もいる。あれでは生徒の身体作りのことや競技のことを考えると、別に専門家がいた方がいいのではないかと常々思つていたので。」
と、言つて財前は声をひそめた。「彼らも所詮教員だ。教育することが本来の仕事で、部活の指導をすることが仕事ではない。中には勘違いをしている人間もいるがね。ただ体力トレーニングの指導を専門家に頼むとどうしても費用がかかるからね。」
「費用がかかるのは当たり前ですよ。ソフトを提供するために彼らだつてどれだけの費用を費やしているか。適当にやつているボランティアではないんですからね。何でもただで手に入れようとするのは虫が良すぎますよ。」
と、富士は興奮しながら言った。富士はフジカルコーチで生活してきたからこそ、体力トレーニングを、無料

が当たり前のよう考えている人が大嫌いだ。形がないソフトを商売にしているとはいえ、そういう人に限つて、ソフトを作り出すのにどれだけの費用がかかっているかあまりに認識をしていないからである。
「まあまあ興奮せずに。ただ現状として部活で満足がいく金額を払えるところは少ないんだ。備品にも金がかかるしな。」
「はあ。それは分かりませんが、専門家をただで使うなんて虫のいい話が・・・。まさか。」
「そう。そのままかさ。君なら給与分でまかなえるからねえ。まあ今週いっばいはトレーニンググループの整備に当ててくれ。必要な備品があればリストにして提出してくれ。それらについてはすぐに購入できるように手は打つておく。各顧問の先生方にも話しはしておくとよ。」
「はあ分かりました。」
富士は財前の計画に見事なまいった。

と、言いながら財前は鉄の扉の鍵を回した。
「わあ。」
中にはいると富士は目を見張つた。想像していた以上に広く、天井も高かったからである。採光や換気も問題なさそう。マシンも数台あるが整備はされていないようだった。しかし、掃除は充分にされておらず、ゴミだけでなく、煙草の吸い殻も散乱している。
「バックション。」
富士はこらえきれなくなつた。
「おやおや、風邪かい。」
「いえいえ、この埃にやられました。大丈夫です。でもこのトレーニングルーム広さは充分ですね。もっと狭くて暗いところを想像していました。」

放課後になり、富士は財前と共にトレーニングルームの状況を確認しに向かった。
「ここは今誰が管理しているのですか。」
「二応体育科となつていますが、実質鍵の管理しかしていません。中については放置しっぱなし。」

Unit代表 澤野 博（さわの ひろし）

日本体育大学卒。社会人経験を経て欧州へ留学。乳酸を中心としてトレーニングを幅広く学ぶ。帰国後、部品となって競技者を支えるという意味で「Unit」を設立。競技種目、競技レベルを問わずトレーニング指導を中心に活動。医療系国家資格の臨床検査技師の資格を持つ異色のフジカルコーチ。
ご意見、ご要望、仕事依頼、お問い合わせは下記まで。
0422-34-5055 (Fax 兼用)、090-1999-2845 または sawano@team-unit.com